

<<東北魂>>を鼓舞する  
電子新聞

発行所 株式会社遊無有  
〒207-0015  
東京都東大和市中央 1-539-15  
http://www.yumuyu.com/  
e-mail:y.s.yumuyu@ozzio.jp

# 東北再興

Re-CreatE, TOHOKU!

2023年(令和5年)3月16日 木曜日

無料

## 第130号

毎月発行

発行 2023年(令和5年)3月16日 木曜日

### 【当新聞発行責任者 兼編集長兼記者紹介】

#### 【砂越 豊】

宮城県生まれ、69歳の新人歴史映像作家兼プロデューサー。3作目の「古代製鉄の埋もれた歴史を発掘した映像」の【奪われた古代鉄王国】の大崎上映会は延期。乗っ取り型コロナ禍を乗り越えて4作目制作に古くは縄文時代から現代まで歴史を掘り起こすことを標榜。



## 【東日本大震災から12年経て思うこと】 喜ばしいのは被災した【木の屋石巻水産】の見事な復興 防潮堤建設が被災地のためではなかったのが残念

あれから十二年で思うことは人さまざま。東日本大震災の発生から十二年について思うことは人さまざまだろう。あの体験は一概にはくれないと思う。

あの大災害を忘れるなどという人もいる。普段は忘れていたのではないかとつい思ってしまう。マスメディアも忘れるなど声高に叫ぶ。しかし、いまでも忘れることなど出来ずに、これまでも、これからも苦しみ続ける人もいる。

そのなかでもさらにまたさまざま人がいる。近親者を亡くした人は、大きな心の痛みを伴い死ぬまで忘れられないであろう。かつての住居が、放射能汚染により帰宅困難地域となっていて避難生活を強いられる人も、避難生活が続く限り、けっして忘れることなど出来ないだろう。一時的な避難生活を送るうちに、かつての住居を捨て、故郷を捨てた人も、心の痛みとなって忘れられないだろう。



木の屋石巻水産のメイン商品の金華サバ缶詰・・・Cheeky's storeよりファクトリーより



震災で看板だった巨大缶詰が流された

味がないと当新聞は考える。喜ばしかったこと、腹立たしいこと。そんなことで、当新聞の今回号では、あれからの十二年間で、喜ばしかったことをひとつ、腹立たしいことをひとつだけ取り上げることにする。

喜ばしかったことで取り上げるのは、当新聞でもフォローし続けている、宮城県石巻市に本社がありながら、大震災後に新工場を内陸部に建設した水産加工業とする株式会社木の屋石巻水産の復興である。

腹立たしいことで取り上げるのは、つい先ごろ終了した、全長四百キロメートルに及ぶ太平洋側の防潮堤工事が被災地のためではなかったというのである。



35種類 年間約500万缶を製造

震災前の業績を上回る缶詰生産量・・・NHK 探検ファクトリーより

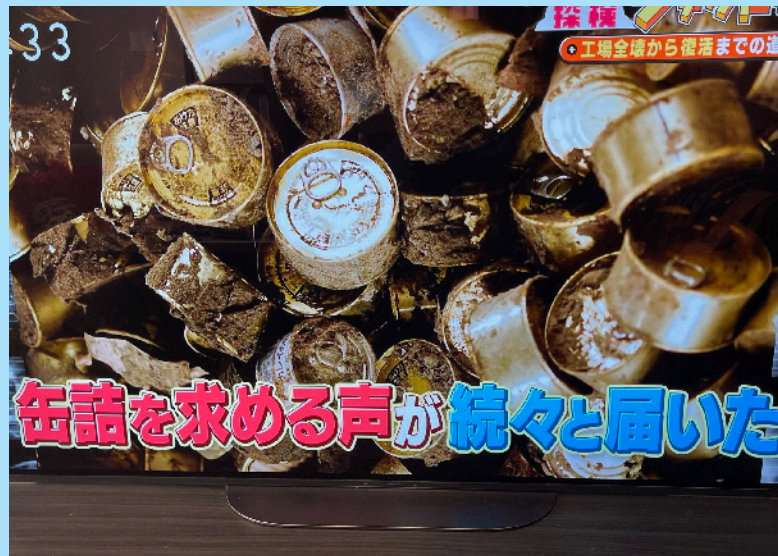


震災後に内陸部の美里町に新たに建設した缶詰工場

### 「三陸海産再生プロジェクト」

取材場所に「木の屋」を選んだのは、まずは「三陸海産再生プロジェクト」の被災体験記をメディアで知ったためであり、そのプロジェクトの事務所が「木の屋」内にあり、そのプロジェクト広報担当が取材を引き受けるということだったため。

また、そのプロジェクトは、被災者が被災者を支援していくというものであり、自分の復興さえままならない状況下で、他の被災者を支援するというのはどういふことかと、どうしてもその活動の全体を知りたいと思ったからでもある。



缶詰を求める声が続々と届いた  
津波で泥まみれになった缶詰が被災者の食糧となった・・・NHK 探検ファクトリーより

のが、「木の屋石巻水産」でもあったので、この会社と縁がこのときに出来た。

### 前社長の木村長努氏との最初の出会い

「三陸海産再生プロジェクト」について、ひと通り取材を終えて、帰ろうという段になったが、そこへ「木の屋石巻水産」の前社長の木村長努氏が顔を出し、筆者を駅まで車で送っていくとのありがたい申し出があったことで、車中で二人きりでいろいろな話を聞くことができた。

その車のなかで、内陸部に新たな缶詰工場を作るといふ話を聞いた。被災した企業で、元の被災場所と内陸との両地点で復興させた企業はなく、木村社長は大きな決断をした



大津波直後の石巻市街・・・被災した宮城医師撮影

ということになる。

どうして、沿岸部と内陸の双方に分散したのかという理由は次の通りだった。

被災した場所で、建物を高くすれば、津波が来ても大丈夫だと思いが、今回の震災のように、設備をすべてなくしたり、車などを失ったりするのは困る。そこで、内陸にも工場を建てる決断をしたというのだ。

工場は最新鋭の設備を導入して、建屋と設備で相当の投資となった。

かなりの額の助成金ももらえることになっているが、相当の借入金もあり、これから会社をどうやって運営していくのか、どうやって借金を返していけばよいかと木村社長が、聞かせることもなく、独り言のようにつぶやくのを聞いた。

そのときが、木村社長とは初対面ということもあり、また、震災後の会社再建という重大局面で軽々しく論評するのもためらわれ、また、どのように相槌を打てばよいか戸惑い、筆者は押し黙っていた。

### 大震災から四年で震災前の売上を回復

被災からの会社再建、二拠点での復興、新工場建設

莫大な投資、莫大な借金という大きな課題群を抱えて、被災後の再スタートを切った「木の屋石巻水産」ではあるが、何とわずか震災後四年で、震災前の売上を達成するという快挙を達成した。ほんとにすごいことである。経営者もすごいが、経営者だけでこれだけの実績



東日本大震災の翌年訪問した時の被災した木の屋の仮事務所

を挙げるのは困難である。社員一人一人の努力の結晶でもあろう。

このことはもともと評価されていいと思う。ただでさえ復興するのはむずかしいなかでの快挙である。

### 被災地復興のモデルになって欲しい

こうして順調に復興したかに見える「木の屋石巻水産」ではあるが、試練がまた襲う。

近年、主力商品である「金華さば缶詰」のサバが獲れなくなったのだ。「金華さば缶詰」の穴埋めをしていくため、それまで行っていた新製品缶詰の開発にさらに拍車がかかっていくことだろう。楽しみ筆者としては、この会社

に、最大の被災地である石巻市の復興モデルというだけなく、東日本大震災からの復興実現モデル企業と位置づけてもらいたいと考えている。

そうならば、いまも復興で奮闘している多くの企業の励みになるはずだから。そのためには、新商品の開発に続いて、新分野の開拓にも進出して欲しいと心から願っている。

### 腹立たしい防潮堤工事

東日本大震災の発生から十二年経って、東北の太平洋側、岩手、宮城、福島もあつたという指摘もあつた。いったい何のための防潮堤なのだろうか？

いまこの防潮堤が守っているのは、人が住まなくなった整備された住宅地のみならず、高すぎる防潮堤により景観が激変することにも巨費を投じて防潮堤を造ることにも、ずいぶん前から批判の声も上がっていた。しかし、いまになって分かることがある。それは、この巨大な防潮堤は、最初から、被災地のことも、被災者のことも、ここに居住する人のことも二の次だったのだ。むしろ工事が巨額になればなるほど都合なのだ。そして巨額にするため、少しでも津波リスクがあるところ理屈をつけられる場所には防潮堤工事を施した。そして防潮堤のコンクリートの厚さも相当なものにして、高さも普通では考え



【まるで刑務所】というあだ名が嘘ではない高すぎる防潮堤・・・NHKBS 放送より

### 被災地のためではなく、大手ゼネコンのための防潮堤工事

高さ十メートル以上の高すぎる防潮堤では、海がまつたく見えない。

海の様子が見えない方がかえって危険だという指摘もあつたという指摘もあつた。いったい何のための防潮堤なのだろうか？

今月八日、ある被災地を取り上げたTV放送を見た。「花は咲いて散るからこそ 海辺の町のローズガーデン 石巻 奇跡の花畑の1年」というタイトル番組。大津波で甚大な被害を受けた宮城県石巻市の雄勝地区にあるバラやハーブなど

1万株以上の花木が彩り、全国から人々が訪れる奇跡のローズガーデンの移りゆく花々と、人々の営みの一年間を記録した番組。その番組に登場する主婦が、高い防潮堤の階段に上ろうとした際に放った言葉が耳に突き刺さった。「刑務所みたいでしょ。みんなが刑務所と呼んでる。」映像で見ると確かに刑務所の高い塀にそっくりである。ある意味では、形状が似ているだけでなく、塀の内側と外側を明確に遮断する刑務所の機能そのものを体現しているように見える。ともかく、被災地とそこに暮らす住民には邪魔ものとしか感じられない「遺産」を押しつけられたのだ。腹立たしいことだ。

# WBCで東北の野球選手が躍動！

アメリカから大谷翔平選手が、ダルビッシュ有投手が、国内からは佐々木朗希投手が、ドリームチームとともにWBCを闘う！

まさに夢のような時間を選手やファンと共有できる大舞台！  
当新聞の発行日(3/16)は準々決勝—イタリア戦を迎える！



オーストラリア戦で大谷の3ランホームラン！自分の看板直撃！  
・・・読売新聞オンライン



大谷、初戦の中国戦の先発は0封、オールジャパンに弾みがつく！  
・・・毎日新聞



ダルビッシュはまるでコーチか？日本の選手に大人気！  
・・・日刊ゲンダイDIGITAL



ダルビッシュ、2戦目で打たれるが、本番はこれから！  
・・・日刊スポーツ



奇しくも3/11に佐々木朗希、WBCデビュー！  
・・・スポニチSponichi Annex



敵方にデッドボール与えるも、これも見事なりカバー！  
・・・abema times

# あれから十二年、 十三回忌の三月十一日

今年も3月11日がやってきた。あの日から12回目の3月11日。もうと言うべきか、まだと言うべきか、干支が一回りした。12年前のこの日亡くなったたくさんの人にとつては、十三回忌でもある。毎年巡ってくるこの日。今年も弟の最期の地、荒浜に向かった。

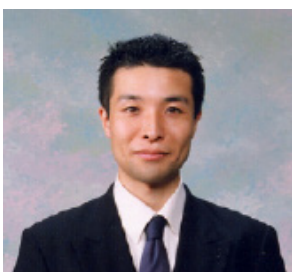
荒浜に行く途中、弟の勤務先であった若林区役所へ。今日は土曜日だったが献花場が設けられ、人が入れ替わり立ち代わり、献花に来ていた。私も例年通り、献花してきた。

中庭にある、職員有志の皆さんが造ってくれた「不忘の碑」。こちらにも花が手向けられてあった。どなたが供えてくれたのか、河津桜もあった。

荒浜の沿岸にあつて津波で全壊し、内陸に移転して再建された浄土寺では、今年も追悼法要が営まれていた。十三回忌だからか、週末だったからか、例年よりもかなり多くの人が集まっていた。海岸近くにある荒浜慈聖観音にも多くの人が集まっていた。

## 執筆者紹介

大友浩平  
(おおともこうへい)  
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。  
「東北ブログ」  
<http://blog.livedoor.jp/anagma5/>



Facebook  
<https://www.facebook.com/kohchi.ootomo/>

海岸の防潮堤の上にも例年よりたくさんの方が集まっていた。何となくここに来た、という人は多いように思う。わざわざここに来たという人は12年前のこの日、大切な人をこの場所ですくした人であるに違いない。とすると、ここで大切な人を亡くしたという人の数が何と多いことか。改めて、信じられないほどの死が、12年前にここであったことに思い至る。地震が発生した14時46分、何の合図もなく、ここにいた人が皆一斉に黙とうを捧げていた。遠くで2隻のフェリーが相次いで汽笛を鳴らしていた。それにしても、波静かである。あの日津波が防潮堤を軽々越えてきた様子など、想像できないくらいである。

海岸を離れて南長沼へ。弟が見つかった場所である。地震発生後の14時46分は、皆が黙とうを捧げる統一時刻



荒浜海岸

のようなものだが、その時刻はまだ弟は生きていたのだ、私にとっては、この地に津波が押し寄せた15時54分の方が重要である。その時刻に合せて、南長沼を見ながら手を合わせた。

帰ろうとして声を掛けられた。誰かと思つたら、弟の友人の今野さんであった。ここにいれば私に来るのではないかと待っていてくれたらしい。弟が好きで乗っていた日産のブルーバードは今野さんもまた好きな車である。弟が駐車場でのブルーバードの手入れをしていた時に、声を掛けてくれて、それで知り合ったそうである。その時はそれっきりだったが、その後ネット上でブルーバードの情報を探している時に偶然弟のブログを見つけ、それが連絡をしてくれて付き合いが始まったとのことであつた。

今日飲んだビールはこの2日前に、車に乗っていて偶然これまた車に乗っていた弟に会つて言葉を交わしたとのことである。私が弟に最後に会つたのは震災の1カ月以上も前で、今野さんは私の両親や区役所の人達を除けば、一番最後に弟に会つた人ということになるかもしれない。今野さんは今年弟が亡くなった38歳になったとのこと、これから先は弟が生きられなかった時間になるのだ、と感じてくれたそうである。12年経つてもそのように忘れないように掛けてもらつて、本当に感謝の一言である。

今年も帰りに、JR長町駅近くの「菓子工房セフレ」でケーキを買った。今日生きてくることのお祝いである。プレートには「今日生きてありがとう」と書いて



浄土寺

もらった。今日飲んだビールはこの3本。アラハマブランド「ヤインマスカットIPA」は、震災後災害危険区域に指定されて人が住めなくなった仙台市若林区荒浜地区にできた荒浜フルーツパークのシャインマスカットを使って希望の丘醸造所が造つたビール。なとり美人」と書かれたビールは、宮城ゆりあげ麦酒醸造所が造つたいちごエール。宮城ゆりあげ麦酒醸造所は、震災の時に津波で醸造所が流されてしまったが、見事復活した。

くれた。やくらいビールの「復興エール」は、津波を被った土地でも栽培できるようにと岡山大学が開発した塩害と湿害に強い大麦を使って造つたビール。いずれも、震災がなかったら恐らく存在しなかったビールである。



荒浜慈聖観音

夕焼けがとてもきれいだった。



不忘の碑



若林区役所玄関



南長浜



お祝いケーキ



クラフトビール



荒浜の夕日

# 東京へ出ない行かない戦略？ 二つの北国、遠き眼差し

今年、私は北海道へ渡るだろうか。今年の始めも、私はそんな風に自問した。

以前本稿でも綴った、かつて毎年のように足の遅いオートバイでかの北国を走った話であるが、ここ十年以上は数年に一回の頻度となっている。その理由としては諸々考えられるが、中でも決定的なのは「当時は東京に住んでいたから、衝動が抑えられなかった」という事だ。遥かなる距離と風土の違いで隔てられた東日本各地、中でも息詰まる巨大都市東京の人々にとって北海道はまさに異郷であり、特に自前の乗り物でようやく北の大地に降り立った際の解放感はずいぶん大きかった。



奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、全国の旅の末、仙台に移住。どの本屋に入っても、とりあえず郷土本の棚に向かつて立ち読みを始める東北好きである。

卒業後、一時的に札幌に住んだ私が人生で最初に入店・利用した「コンビニ」なるものがこのセイコーマートだった。無論、その後旅を始めて全道に店舗が存在する事を知り、ますます愛用するようになった訳だが、実は近年かのセブンイレブンを凌ぐ全国一のコンビニとして注目を集めているというのだ。

奇妙な現象である。北海道以外には、何故か埼玉と茨城にしか店舗がなく、全国的にはほとんど知られていないはずのセイコーマートが全国一とは、おそろしく全国から訪れる観光客らが、旅行先で出会った地元ならではの店の魅力を感じ、情報を拡散した、あるいはその噂が広まり関東の店舗にも駆けつける層が現れた、といった経緯があったのかも知れない。それにしても、セイコーマートとは一体どんな店で、一般のコンビニと何が違うというのだろうか。

入店するとどの店舗も確かに、全国に広く知れ渡った大手三社のコンビニと雰囲気や棚位置が異なり、ミニスーパーといった趣を強く感じる。種類が異様に豊富なパンの棚がまず目に入る。飛び込んでくるが、豊富なのはパンのみならず、ほぼ百円という安さの惣菜類・カップ麺など企業独自に製造するものがずらりと並び、ワインを始めとする酒類棚もコンビニのイメージを遥かに凌ぐ規模である。

六年前から日本版顧客満足度指数・コンビニエンスストア部門が調査され、これまで五年連続全国一位に選ばれているというセイコーマートだが、実は「日本最古のコンビニ」でもある(日本初のコンビニとして大阪説・愛知説もあり)。始め、酒の卸売を行っていた創業者が、新たな事業を模索した末に、当時アメリカで成長を始めていたコンビニという業態に目をつけ、コンビニという言葉を自分がかつて知っていた日本に上陸にも先立つ事三年前、一九七一年の事であった。十年かけて百店舗を根拠地として、現在は全道内に千店舗を超える。

東京の、北海道への片想い―そのようなものを象徴する存在があるとするれば、私はセイコーマートを挙げられるかも知れない。それは、ほとんど北海道でしか見ることができない、だが北海道の至る所にあるコンビニエンスストアの事である。今から三十数年前の高校

東部地震では道内半数の店舗が非常用電源やガスを活用して非常食を作り、営業を続けたという。災害時にコンビニが営業再開・継続するには諸事情から様々な困難があると聞くが、まさに究極のコンビニとは何か、をこの地方ならではの名物店舗群は問いかけるようだ。さて、かように北の大地で燦然たる業績を誇るセイコーマートであるが、前述の通り東京には一軒も出店していない。茨城・埼玉に現役の店舗は全国に出店を呼び掛けていた当初に呼応したもので、現在も敢えて東京出店は検討されていないという。それについては、多くの人に知られる事が必ずしも望ましい事ではなく、店を増やせばいいというも

ではないのだと運営会社セコマの代表者は語る―「北海道から出ない事」こそが大手と戦う為の戦略であり、他の大手コンビニと同じ事はやらないなどの方針も首尾一貫しているのだという。例えばコンビニといえはイメージされる「おでん」は敢えて扱わない―客を逃がすのではないかと、思いがちなが、他が始めたものに追いついても越える事は難しい、ならばこちらが独自に始めたもので勝負する、という考え方なのである。これら悉く右に倣えとならず「希少価値」をブランドイメージとして高め、難な際にも威力を発揮する事実、二〇一八年の胆振

業たるやり方と言えるのではないだろうか。こうして長きに渡り知られざる存在であったコンビニが道外にも知れ渡ると、「東京にもできてほしい」というような声も御多分に漏れず出てくるのだが、セイコーマートの特色は繰り返しまでもなく地元へのこだわりと愛情、何より地元北海道民に貢献したいという明確な意識の上にアイデンティティを確立する故にそのものなのである。やはりこれからの時代は、何でもかんでも「東京圏にも来てもらいたい」ではなく、セイコーマートが近所に欲しければ北海道へ移住するべきだ、くらいの事を言うてもいい。これが、東京の北海道への片想いである。

さて、北海道の宝であるセイコーマートは残念ながら東北には存在しないが、その北海道も羨むべき東北の宝として私があらためて揭示したい存在の一つが、『いぎなり東北産』である。あらためて、と言うのは以前にも本稿で紹介しているからで、二〇一五年結成の、全員東北出身の少女たちから成るアイドルグループ、その後の話である。以前も書いたが、私自身はアイドルというメディアに全く詳しくないながら、やはり東北という土地にこだわりの、且つ思いの外幅広く大胆とも言える活動を続けるグループという事で常々注

目してきた。以前紹介した際は、アイドルというものの寿命は短く、少女たちは一瞬のうちに大人になってしまうだろう、というような事を書いたが、確かに当然ながら当時中学生から高校生であったメンバーは既に半数が成人しているが、アイドルとしての活動については減速どころかますますその内容は地道ながら面白く、したたか・確信的にすら思える程に逞しく続いているようである。

動画配信を活用したコラボは、遥かに登録者の多い動画発信者を介したものと比較にならない大きな効果をもたらす。動画を観て実際に商品を購入する率は圧倒的であり、ファンの熱量と行動力に加え、若い女性も多いファン層の厚さもあってその情報の波及力は想像を超えた。また「東北産」を応援する企業・個人間も打ち解けやすく、新たな繋がりが続々と東北に生まれつつあるというのである。

近年は小さな子供たちが、中央のアイドルを差し置いて憧れを抱き始めていくとまで言われる「いぎなり東北産」だが、最近の活動として特に注目すべきは、題して『外堀を埋める！東京行かないツアー』なる全国巡業である。現時点での最大目標として東京・武道館での単独コンサートを開催する彼女たちだが、従来の発想であれば東北から全国区になるならばともかくも東京へ

「東北産」の存在を耳にする。全国的な知名度は高くないが、そのパフォーマンスレベルもファンも高く、東北らしいマナーの良さや意識の高さ、ライブ会場で一丸となる親密感の評判となっていた。

ここまでは見てきて、やはり北海道が始めから東京を見ておらず、地域を発想の原点としているのに対して、東北は東京から来るものを楽しむ、東京を目標にしてきたのだと、その大きな違いをも痛感する。しかし、今後人口が減少し過疎地域も増えていくであろう日本に、おそらくセイコーマートのようなコンビニこそが必要となるように、「いぎなり東北産」が全地方のアイドルの指標となつて日本の熱量を上げていく―その北からの起爆剤たる可能性に対して、共に疑いはない。



2021年に訪れた、北海道のセイコーマート日高店



ツララ



氷筍



早池峰山



積雪の日の狛犬



氷筍 2



雪のバームクーヘン

シリーズ 遠野の自然

「遠野の啓蟄」

遠野 1000 景より

暦上は啓蟄といっても、遠野では春到来とはまだ言えないようだ。  
「もうすぐ」ではあるが、まだ雪も降ることもあり、山間部の洞窟では、「氷筍」にも出会える。  
温かい日もあり、そこで気が緩むと、寒さが逆戻りしたときに心身が対処できないから、もう少しの間、身構えたままになるだろう。  
だからこそ余計に、春が待ち遠しい。そうした気持ちは東北育ちの筆者にはよく分かる。しかし、いつも言うことだが、順調な季節の循環はともワクワクする。  
いままさに、冬から春に変わろうとするダイナミックな胎動が聞こえる季節だ。



フクジュソウ開花



ナンテンをついばむヒヨドリ

## 【新シリーズ・三陸酒海鮮会】の開催ご報告と今後のお知らせ

区切り目の第50回は仙台に本社のある、三陸牡蠣メインの【飛梅神田店】  
第51回は3/20に、第52回は4/22に開催予定、5月以降は企画中

### 【基本方針】

- ① 会は原則として、月一回開催といたします
- ② 毎回会場を変えての少人数開催といたします。
- ③ 今後は、当面の間、毎回、「割り勘」を基本とした料金でお願いいたします。

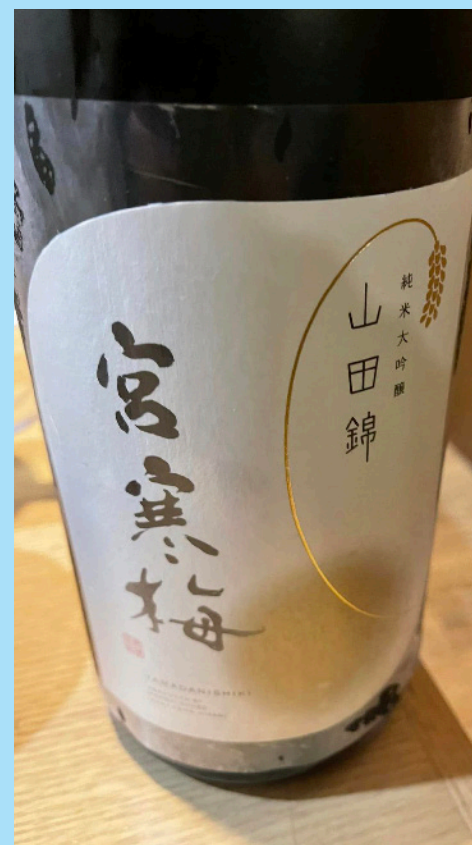
第50回三陸酒海鮮会 【飛梅神田】 篇・・・「生ガキ」「蒸しかき」「カキフライ」「カキ鍋」の  
カキ尽くし



集合写真



三陸産のカキなべ



東京ではめったに飲めない  
【宮寒梅】

第51回三陸酒海鮮会 【むさし乃】東神田篇  
2022・3・20(月) 19:00～22:00



十四代と新政が待っている！

第52回三陸酒海鮮会 【樽一】新宿篇  
2022・4・22(土) 17:30～20:30



クジラ刺身盛り合わせ・・・イメージ

# 写真でお伝えする 東北の風景

## 【春はもうすぐそこ・・・東北】

写真撮影 尾崎匠

